

兼松サステック

地盤改良に新技術

セメントと土、混ぜざりやすく

地盤調査や地盤改良工事を行う兼松サステック(東京都中央区)は、規模建築物の改良工事に対応可能な「ファインパイル工法Civ.(シビル)」を開発した。

地盤改良工事では、まず攪拌装置を地面にセツト、所定の深度まで回転しながら掘進。同時にセメントスラリーと呼ばれるセメントと水の混合体を吐出する。これが地中で固まり地盤改良となる。同社はこれに分散剤を



水谷羊介取締役

添加して粘度を低下させ、施工性の向上と改良体の一軸圧縮強度のバラツキを抑えた。現場の土とセメントスラリーの混練精度が向上することで強度が安定、改良工事の質が高まる。

今回、第三者的機関としてベターリビング協会がこの工法を認証。さら

に同社が加盟しているグランドートユニオン協会の運用体制も認証された。

グランドートユニオン協会は、ゼネコンや工務店などの加盟店が全国20社以上いる団体であり、加盟店であれば今回の工法で設計・施工できる。

同社の売上高は130億円ほどで、ジオテック事業部は約60億円を占める。同社は戸建てを中心に地盤調査から補強、沈下修正も行う。年間施工件数は1000件弱。戸建

て住宅の地盤改良の件数は年間約6000件、地盤調査の件数は年間約9000件だ。

開発のきっかけは、同社の水谷羊介取締役の大学時代の研究。当時土とセメントがうまく混ぜざらず問題があった。「混合性を向上するということ、この問題を解決することを目指した」(水谷取締役)

初年度は5億〜10億円、1棟あたり1000万〜2000万円を見込む。「3月に認証されたが、すでに15件の施工が決まっている。工場や大型店舗、幼稚園、老人ホーム、倉庫など。大型消防署もある」。